

東北 VALUE SIGHT 宮城



一般財団法人宮城県成人病予防協会 理事長

日下 睦男 (くさか・むつお)

昭和6年4月、宮城県白石市生まれ。
昭和30年、東北学院大学文経学部卒業、株式会社振興相互銀行(現仙台銀行)入行。
平成5年より頭取、会長を歴任し、平成18年5月、財団法人宮城県成人病予防協会理事、同年8月、理事長に就任し、現在に至る。
平成20年旭日小綬章受章

〒981-3107 仙台市泉区本田町8番26号
TEL 022-773-2311・FAX 022-773-2314
URL: <http://www.mygsji.or.jp>

● 成人病(生活習慣病)の慢性疾患に関し、治療だけでなく予防の重要性をいち早く提唱し、成人病予防医療の先駆けとして50年を超える実績のある一般財団法人宮城県成人病予防協会。

● 予防から治療までの一貫したサービスを提供し、都市中心部に健診施設を設けるなど、利用者・患者の視点に立った運営を特徴とする。来年秋には、仙台市営地下鉄泉中央駅前に病院を移転し、一層の利便性の向上を図る。

受診者・患者様のことを第一に、 予防から治療まで一貫したサービスを提供

成人病予防医療のパイオニアとして

昭和38(1963)年10月、東北大学の総長を務められた黒川利雄先生の提唱のもと、財団法人宮城県心臓血管病予防協会として設立されたのが当協会の始まりである。昭和59(1984)年4月、名称を財団法人宮城県成人病予防協会へと変更し、一昨年、平成25(2013)年10月には創立50年を迎えた。

黒川先生は当協会創設以前からガン、脳卒中、心臓病など、いわゆる成人病に対して予防の重要性を訴えておられた。昭和35(1960)年には同じく会長を務められた宮城県対がん協会によりレントゲンを使った健診車両を使った胃の集団検診を開始。車両を使った健診は「宮城方式」と言われ、当時、全国の模範となる健診方式となった。初代理事長となった黒川先生のもと、当協会も集団検診による病気の早期発見に力を入れてきた。当協会が成人病予防医療のパイオニアと自負するゆえんである。

予防から治療までをカバーする体制

昭和54(1979)年7月、旧泉市市名坂に附属の「仙台循環器病センター」が開設された。循環器科だけでなく小児科、心臓血管外科を持つ医療施設が併設されたことは集団検診による早期発見に重点を置いてきた当協会が、新たに治療分野に力を注ぐ契機となった。

当協会の大きな特徴は現在、予防、健診から治療までをカバーする一貫した体制を備えていることであるが、このセンターの開設がその皮切りとなった訳である。

昭和63(1988)年11月には仙台市中心部に「中央診療所」を新設し、従来の巡回型健診だけでなく、施設型健診の人間ドックにも取り組み始めた。さら

に、平成元(1989)年10月に附属診療所を仙台市泉区松森に移転新築し5階建ての「市名坂診療所」を開設し、1泊2日の人間ドックにも対応した健診施設がスタートした。平成10(1998)年8月、「中央診療所」が現在の仙台駅前(仙台市青葉区中央一丁目3-1 アエル12階)に移転し外来診療部門が併設された。健診施設としては地域随一の内視鏡設備などを持つ高度な検査体制はもちろんのこと、仙台駅から徒歩数分という利便性の高さもあり、多くの皆様に利用される健診施設となっている。さらに平成20(2008)年3月には「中央診療所」に「レディースクリニック」を開設し、乳腺・婦人科疾患の早期発見に努めている。また、同年8月にはコンピューター断層撮影装置「MDCT」を「中央診療所」にも導入し、心臓発作の原因となる冠動脈の狭窄や動脈硬化の状態を詳しく検査することができるようになり、心臓突然死の予防に効果を発揮している。

その後も「仙台循環器病センター」や「市名坂診療所」の改築も行われ、地域の皆様によりよい医療サービスを提供し続けている。こうして「予防から治療まで」という体制を強化してきた訳である。

おかげさまで、平成26(2014)年度には健康診断部門で年間約41万2千人、診療部門で約7万2千人、計48万4千人の方にご利用いただいた。

東日本大震災後の被災労働者の健診

東日本大震災の折りは、「全国労働衛生団体連合会」の委託を受け、平成23(2011)年7月から10月にかけて被災された労働者に対する健康診断を行った。これは、震災によるストレスや過労など、心身

の負担によって労働者の方々が健康を損なうことを懸念し、実施されたものである。商工会の方々の協力を得つつ、従業員300名以下の中小企業を対象に、最終的には約2万人の方に受診いただいた。この時初めて当協会の健康診断を利用された方も多く、これを機会にあらたなご縁を結んだ事業主様も少なくない。当協会にとっては大変意義のある取り組みであった。

来年秋、新病院へ移転

「仙台循環器病センター」は築後36年を経過し建物の老朽化も進んでいたこともあって、来年秋、仙台市営地下鉄泉中央駅前に移転新築することとなった。仙台駅前のアエルにある「中央診療所」も同じで

あるが、駐車場の問題は別にして、交通の便が良い市街地中心部に医療機関が立地することは非常に重要だと考えている。泉中央駅は地下鉄の終点であるし、近郊へのバス路線網もすべてこの駅につながっている。ご高齢の方が街なかのマンションに住まう最近の傾向やコンパクトシティの理念にも合致する。しかも駅から歩いて1、2分の距離は利便性が非常に高い。最高の立地であると思う。

しかし、こうした利便性もさることながら、医師、看護師等の医療スタッフ、受付窓口など事務業務に携わる者が三位一体となって、専門的でありながら受診者・患者様のことを第一に考え、寄り添ってあたたかい医療を提供することが何よりも大切である。そのためには、職員の一人ひとりが何を想い、どこを目指しているのかをしっかりと認識すること。当協会の設立趣旨を再認識しつつ、思いをあらたにするところである。



来年秋に地下鉄泉中央駅前に移転・開業予定の仙台循環器病センターのイメージ図